

緊急度アセスメントシート

市町村要対協用

児童氏名
生年月日

性別
年齢 歳 ヶ月

(記入年月日)
〔作成者〕

①当事者が保護を求めている	☐ こども自身が保護・救済を求めている ☐ 保護者が、こどもの保護を求めている
☐ YES ☐ NO	②当事者の訴える状況が差し迫っている ☐ 確認にはいたらないものの性的虐待の疑いが濃厚であるなど(きょうだいや同居人等からの性被害疑いも含む) ☐ 保護者からのこのままでは「何をしでかすか分からない」「殺してしまえそう」等の訴え等
☐ YES ☐ NO	③すでに虐待(疑い)により重大な結果が生じている ☐ 性的虐待又はきょうだいや同居人等からの性被害(疑い) ☐ 重度以上の外傷 ＜最重度＞ ☐ 頭部外傷(慢性・急性硬膜下血腫、頭がい骨折等) ☐ 腹部外傷(内臓損傷等) ☐ 頭部、腹部以外の重篤な骨折、裂傷、打撲傷、眼球の外傷、熱湯や熱源による火傷・熱傷痕等 ＜重度＞ ☐ 医学的治療を要するほどの外傷(骨折、火傷、顔面の外傷) ☐ 慢性的なあざや傷痕(タバコ等) ☐ 閉じ込められる、拘束されているような外傷 ☐ 最重度のネグレクト ☐ 脱水、栄養不足による衰弱がある ☐ 低出生体重児や基礎疾患によらず、加療中か不明で、身長体重が標準から大きく外れている(乳幼児で体重の増加が見られない、成長曲線-2SD以下等) ☐ こどもの生命や身体、精神に関わる重大な医療行為を拒否している ☐ 乳幼児を長時間、大人の監督もなく放置している ☐ 車上生活をしている、居所が定まらず転々としている
☐ YES ☐ NO	④次に何か起これば、重大な結果が生ずる可能性が高い ☐ 乳幼児 ☐ 生命に危険な行為(頭部打撃、顔面攻撃、腹部攻撃、首締め、道具を使った体罰、乳幼児に対する強い揺さぶり、逆さ吊り、戸外放置、溺れさせる等) ☐ 中度の外傷 ☐ 比較的軽度(医療機関受診を要しない程度)だが、保護者やこどもからの説明に合理性がない外傷(擦過傷、打撲傷、内出血等) ☐ 重度のネグレクト ☐ 電気やガス等のライフラインが止まっている ☐ 保護者に慢性的な精神疾患があり、乳幼児の世話ができていない
☐ YES ☐ NO	⑤虐待が繰り返される可能性が高い ☐ 新旧混在した傷、入院歴 ☐ 過去の介入(複数の通告、過去の相談歴、一時保護歴、施設入所歴、「きょうだい」の虐待歴) ☐ 保護者に虐待の認識・自覚なし ☐ 保護者の精神的不安定さ、判断力の衰弱
☐ YES ☐ NO	⑥虐待の影響と思われる症状が子どもに表れている ☐ 保護者への拒否感、恐れ、おびえ、不安 ☐ 面接場面での様子(無表情、表情が暗い、過度のスキンシップを求める等) ☐ 虐待に起因する身体的症状(発育・発達遅れ、腹痛等)
☐ YES ☐ NO	⑦保護者に虐待の発生又は重症化に繋がるリスク要因がある ☐ こどもへの拒否的感情・態度 ☐ 精神状態の問題(鬱的、出産ストレス、育児ノイローゼ等) ☐ 性格の問題(衝動的、攻撃的、精神的に未熟) ☐ アルコール・薬物等の問題 ☐ 公的機関等からの援助に対し拒否的あるいは改善が見られない ☐ 家族・同居者間での暴力(DV等)、不和 ☐ 日常的にこどもを守る人がいない ☐ 住所が頻繁に変わる ☐ 昼間や夜間に長時間外に出すことがある、保護者が夜間不在だったことがある ☐ こどもに軽度の外傷を生じさせた、傷が残るほどではないが体罰がある ☐ 極めて家が不衛生な住環境にある、衣服など長期間不潔なままにする
☐ YES ☐ NO	⑧虐待の発生又は重症化に繋がる可能性のある家庭環境等 ☐ 虐待によるのではないこどもの生育上の問題等(発達等の遅れ、障がい等) ☐ こどもの問題行動(攻撃的、盗み、徘徊、自傷行為、嘘をつく等) ☐ 保護者の生育歴(被虐待歴、愛されなかった思い等) ☐ 養育態度・知識の問題(意欲なし、知識不足、期待過剰等) ☐ 家族状況(祖父母等含む保護者の死亡・失踪、離婚、妊娠・出産、ひとり親等) ☐ 経済的に困窮している(借金、生活苦、失業など) ☐ 「こどもを叩いてしまえそう」と保護者が訴えている ☐ きょうだい間の差別的な取り扱いがある ☐ 無視、暴言、乱暴な扱いなど保護者の不適切なかかわりがある ☐ 複雑な家庭環境(多子世帯、ステップファミリー、他国籍、ヤングケアラーなど) ☐ 3歳以上のこどもであって、未就園又は未所属(キーパーソンが不在)

緊急度 A

緊急介入

児相へ通告

緊急度 B

発生(再発)防止のための緊急支援

児童相談所と支援方針を至急協議

緊急度 C

集中的支援の実施

市町村が主体となり集中支援

緊急度 D

継続・総合的支援の検討